



順天堂大学 医学部 附属 静岡病院
JUNTENDO UNIVERSITY SHIZUOKA HOSPITAL

“Juntendo+Izu = J's”

皆さんと、順天堂大学医学部附属静岡病院をつなぐ、
アットホーム情報誌「J's（ジェイズ）」。

ジェイズ

vol.26
2025 春号

ご自由にお取り
ください

特集
救急診療科

のぞいてみよう

命を救う 医療の最前線

📄 ドクターヘリで結ばれた命
～受傷から退院までを振り返って～

📄 病院 & ドクターヘリ格納庫見学会

👤 J's worker - 働く人 -
栄養科 管理栄養士 山下 陽平

📍 2025年度 市民公開講座
ミニレクチャー動画配信予定

🏢 連携登録医の紹介
函南耳鼻咽喉科医院(函南町)
医療法人社団サーフサイドメディカルケア 下田眼科クリニック(下田市)

🌟 私のオススメ
「ザ・ロード/2006年」
「カラーモンスター」

FEATURE

救急診療科特集

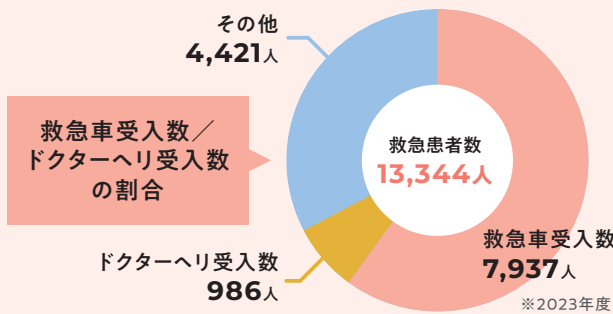
\\ のぞいてみよう 〇〇 //

命を救う 医療の最前線

突然の事故や病気で命の危機に直面したとき、最前線で活躍するのが救急診療科です。地域の命を守るために活動する救急診療科の現場を、さまざまな側面から見てみましょう。

〇〇 チーム医療の要 救急外来

救急診療科の医師が中心となり、各診療科の専門医と密接に連携しながら診察・治療を行っています。症状や病状に応じて、適切な検査や処置を迅速に実施し、必要に応じて専門診療へとつなげることで、患者さんに最善の医療を提供します。



POINT	救急車・ドクターヘリとの連携	初期診断	重症患者の管理
	搬送から治療まで一貫対応	緊急CTや血液検査を迅速に実施	集中治療室(ICU・CCU)への移行対応

01 365日24時間体制で緊急医療を提供

02 高度な緊急度・重篤度の疾患に迅速対応

03 救急車やドクターヘリとの連携

04 各専門診療科と連携したチーム医療を展開



〇〇 静岡県東部救急医療の「最後の砦」 救命病棟

重症の患者さんが入院する集中治療室(ICU・CCU)、高度治療室(HCU)では、一般の入院患者さんよりもさらに厳重な全身管理が24時間体制で行われています。



現場の声 命を支えるプロフェッショナル



救急診療科 准教授

大森 一彦

救急の現場では、患者さんが自分の症状を伝えられないことも多く、限られた時間の中で病状を把握し、適切な治療を開始しなければなりません。時にはドクターヘリやドクターカーで現場へ向かい、チームと連携しながら最善の対応を考えます。

私は学生時代の野球経験から、チームで一つの目標を成し遂げることに達成感を感じていました。救急医療も同じで、看護師や各診療科の専門医、救急隊など、多くの職種と協力しながら、患者さんの命を救えることになよりのやりがいを感じています。数年前、産後の大量出血で搬送された患者さんがいました。到着時には30分にわたり心肺停止の状態でしたが、産婦人科の医師や看護師、輸血室と連携し、懸命な治療を行いました。その結果、患者さんは意識を取り戻し、最終的には歩いて退院されました。その姿を見たとき、この仕事を選んで本当に良かったと心から思いました。

救急医療は劇的な瞬間だけでなく、長期的なケアも含まれます。責任の重さを感じながらも、一人ひとりに最善を尽くすことが私の使命だと考えています。



■ 源兵衛川

休日の散歩コース。日の光とせせらぎに癒される、心落ち着くお気に入りの場所です。



看護部 看護師

脇元 悠輔

救急外来では、緊急搬送された患者さんを迅速に受け入れ、診断や治療につなげることが求められます。私は看護師として、検査や処置の介助、重症患者の対応、手術準備など、幅広い業務に携わっています。その中で、患者さんのわずかな変化を見逃さず、医師へ適切に伝えることが重要だと日々実感しています。

印象に残っているのは、泌尿器科の症状で来院された患者さんの異変に気づき、詳しく観察した結果、実は心臓の疾患だったと判明したケースです。患者さんの訴えに耳を傾け、小さな違和感を見逃さなかったことで、命を守ることができました。

救急医療では、チーム全員が協力し、素早く正確な判断を下すことが求められます。私は、医師と患者さんの橋渡し役として、より良い医療が提供できるよう努めています。日々の経験を通じて、観察力と判断力を磨きながら、チーム医療の要としての役割を果たしていきたいと思っています。



■ リール式チェーン『のびっし』
IDカードにつけることで、ログインが便利! 置き忘れない! 等、いいこと尽くしのおすすめグッズです。

REPORT

第4回

ドクターヘリで結ばれた命

～受傷から退院までを振り返って～

ドクターヘリで病院へ搬送される患者さんは重症なケースが多く、自分がなぜ・どうやって病院にきたのか覚えていない場合があります。しかしその背景には、誰かが119番通報をしたことから繋がれた“救命のボタン”があります。救命の連鎖の重要性やドクヘリにおける救命活動の周知を目的に、“救命のボタン”をふりかえる会が当院で開催されました。患者さんのほか、患者さんを救助した救急隊員、フライトドクター、リハビリを担当した理学療法士などが参加し、当時の状況に加えてそれぞれの思いを語りました。

① 事故発生

2024年2月、会社員Kさんが出勤のため自家用車でバイパスを走行していたところ、センターラインをはみ出してきたトラックと正面衝突する。事故目撃者が119番通報する。

② 救助

消防車・救急車が到着するもトラックが車体の前面にめりこんだ状態でドアが開かず、足も挟まれている状況。最終的には車体を切断し、リアハッチから救助する。救助中は救急隊員が手を握り、声をかけて患者さんを励まし続けた。

③ 救急車

足や肩などの複雑な骨折に加え、肺にも大きなダメージを確認。酸素投与と脊柱固定をしてランデブーポイント(ドクターヘリが待っている場所)まで患者さんを運び、患者さんをドクターヘリへ引き渡す。

④ ドクターヘリ

患者さんが「苦しい」と声にし、痛みがとてもある様子。変形してしまった足を固定し、麻酔投与を行う。肺に溜まった液を排出するため開胸処置。

⑤ ICU(集中治療室)

胸が虚脱している状況(肺がしぼんだまま膨らまない状況)だったので人工呼吸器を装着。そのまま肺・足の緊急手術へ。

⑥ HCU(高度治療室)

ICU滞在4日後にHCUへ移動。人工呼吸器が外れ食事やリハビリも始まるが、複数回の手術が続く。

⑦ 入院・リハビリ

事故から11日後に一般病棟へ。痛みが酷いため痛み止めを打ちながら過ごす。最初は痛くて足が上がらない状態だったが、リハビリを続け、事故後1ヶ月半で平行棒を使いながら少しずつ歩けるように。

患者さんから



本当にありがとうございました。この一言です。事故発生時の記憶はあいまいなのですが、事故後の車内にいる時はとても不安でした。救助の方がきてくれたとき「やっときてくれた」と安心したことを今でも覚えています。入院中も痛みや辛いことがたくさんありましたが、病院の皆さんがいつも優しく接してくださったので、落ち込むこともなくいつも前向きに過ごすことができました。痛くても辛くても、大丈夫とすることができました。最初から最後まで本当にお世話になりました。

救急隊員



通常、救急隊員は現場を引き継いだらそれで終わりです。その先患者さんがどうなったのか気になりますが、今回、元気になられた患者さんを目の前にして、今まで漠然としていたものが形になって本当に嬉しいと思います。あの惨状で意識朦朧としていた患者さんがこうやって元気になっている姿をみることで今後の励みになりました。

理学療法士 (リハビリ担当)



リハビリ開始がICU入室2日後、痛みのなか身体の向きを変えたりしていました。手術後も痛くて起きられないはずなのに、痛み止めを打ちながらリハビリを頑張っていた姿が印象に残っています。今日、歩いている姿をみてとても嬉しいです。

整形外科病棟 看護師



「歩けるようになりたいから今日はこれくらい頑張りたい」と積極的な姿勢で看護師のことも気遣ってくださっていた患者さん。リハビリ病院へ転院となる時には車いすや杖についている方が多いのですが、今回、患者さんがちゃんと歩いている姿をみることで嬉しく思います。

フライトドクター 大森医師



救助活動が難航し、身体の状態も悪い。ドクヘリが飛んでいなかったら、もしかしたら助からなかったかもしれない状況でした。本件に限らず、救助隊や医療従事者の方々はそれぞれの分野で関わりあって1人の命をつないでいます。その認識をみんなに共有し、今後のモチベーションに繋げていければいいと思います。また、この会を通して、患者さんに限らずご家族の方の不安を払拭する励みになってほしいです。

集中治療室 看護師



救命センターの看護師として「患者さんを生命の危機から守る」ということは大前提なのですが、患者さんのご家族の不安を軽減するということが常に心がけています。ロバクで意思疎通ができるようになった時、ご主人が面会で涙を流して喜んでいらしたことを今でも覚えています。

EVENT

病院&ドクターヘリ格納庫

2025.1.18(土)

見学会を開催しました



普段は見るできない医療現場を地域の皆さんに体験していただく機会として、見学会を開催しました。当日は45名が参加し、医療スタッフの説明を聞きながら、救急医療の現場を間近で体感。ヘリポートや救急外来など4つのエリアを巡り、最後には全員でドクターヘリを間近に見学しました。

ヘリポート



救急外来



いろいろな道具
があってスゴイ！

格納庫



手術室



初めての手術室
に緊張

参加者インタビュー



ドクターヘリに興味があり参加しました。迅速な対応や医療チームの連携の大切さを学び、理解と敬意が深まりました。



医療に興味があり参加しました。貴重な見学を通じて、医療への夢がさらに膨らみ、とても良い経験になりました。

J's worker

働く人

栄養科
管理栄養士

やました ようへい
山下 陽平



私は現在、糖尿病支援入院の患者さんを対象に、個別・集団栄養相談を担当しております。血糖値を安定させ、合併症を予防するために運動・服薬・食事の3つの柱を重視しながら、各専門スタッフと協力してサポートを行っています。当院の栄養科では、各疾患に応じた「食事管理」と「栄養管理」を実施しており、衛生・品質管理の徹底による安心・安全な食事提供に努めるとともに、季節感や楽しさを感じられる献立作成・調理を行っています。また、食事療法が必要な入院・外来患者さんに対し、一人ひとりの生活習慣



に合わせた栄養相談を実施し、NST(栄養サポートチーム)や褥瘡(床ずれ等)回診、診療科カンファレンスにも参加するなど、チーム医療の一員として活動しています。

栄養相談では、一方的な指導ではなく患者さんとの対話を重視し、共に問題点を探りながら実践しやすい目標を設定することで、継続しやすく、より効果的な食事療法につなげることを心掛けています。食事は一生続くものであり、制限がかかることに不安や葛藤を抱える患者さんも多いため、栄養相談を通じてその不安を軽減し、安心した表情や笑顔が見られたとき、また前向きな発言が得られた瞬間に、管理栄養士としてのやりがいを感じます。今後も、患者さんやそのご家族に寄り添いながら支援を続けていきたいと考えています。



J'S EVENT

2025年度 市民公開講座・ミニレクチャー動画配信予定

● 市民公開講座

2025年
6月

2025年
9月

2025年
11月

2026年
2月



順天堂大学医学部附属静岡病院
大会議室 及び ZOOMにて

● ミニレクチャー動画配信

2025年
4月

2025年
7月

2026年
1月

2026年
3月



順天堂大学医学部附属静岡病院
特設ページにて配信

市内外の
どなたでも

参加無料

申込不要



患者さんに良質な医療を提供できるよう、当院と連携体制を取っている地域の医療機関をご紹介します。

函南町

函南耳鼻咽喉科医院



1990年の開院時より地域医療の一端を担う「かかりつけ医」として、耳・鼻・のどの診療に携わってきました。病気の早期治療とともに病気に対する不安も解消できるよう、わかりやすく丁寧な診療・治療を心掛けています。また、連携医療機関への紹介も速やかに行う体制を整えています。

所在地：田方郡函南町上沢136

院長：宇野 比奈子

診療科：耳鼻咽喉科

アクセス：東海道本線「函南」駅より車で7分
伊豆箱根鉄道「大場」駅より車で3分
三島市自主運行バス「花のまち号」函南町文化センター
下車徒歩1分

電話：055-979-3719

URL：https://www.yoyakuru.net/rs/kannamient/web/

Webサイト



診療(受付)時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	○	—	○	—	○	○	—
15:00~18:00	—	○	※	—	○	—	—

※水曜日午後のみ15:00~17:00

下田市

医療法人社団サーフサイドメディカルケア 下田眼科クリニック



一般眼科を主に土曜日曜も外来を行っております。保険診療以外ではシワやたるみ、肌質改善の美容施術(自費診療)を行っております。地域の患者様に寄り添う医療を心がけております。

所在地：下田市西本郷1-7-10

院長：鈴木 大

副院長：鈴木 志保

診療科：眼科

アクセス：伊豆急下田駅徒歩5分

電話：0558-25-4146(予約電話:0558-25-4148)

URL：https://www.shimoda-ganka.com/

Webサイト



診療(受付)時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
11:30~17:00	○	○	—	—	○(※)	○	○(※)	—

※金曜日のみ12:10~17:30

※日曜日のみ12:10~17:00



書籍

ザ・ロード／2006年

コーマック・マッカーシー 著／黒原 敏行 訳
早川書房



大災害で文明が崩壊し、生存者は飢えや共食いに直面する荒廃した世界で、父と息子は善き者であろうと努めながら、南へ向かい歩き続けます。死が常に迫る極限状態の中で、揺るがない父の愛が描かれ、深い感動を与える作品です。過酷な内容ながら、コーマック・マッカーシー作品の1作目として一番おすすめの一冊です。



総務課(健康安全推進センター)／
課長補佐 稲葉 忠敬

書籍

カラーモンスター

アナ・レナス 著／大友 剛 訳
株式会社永岡書店



「カラーモンスター」は、感情を色で整理することで、自分の気持ちを理解しやすくする絵本です。子どもが感情を表現する力を育むだけでなく、大人にも自分の複雑な感情を見つめ直すきっかけを与えてくれます。シンプルなストーリーと可愛らしいイラストが感情の大切さを優しく教えてくれるほっこりとする一冊です。



看護総務課／
精神看護専門看護師・産業カウンセラー 宮澤 久美子

順天堂大学医学部附属静岡病院

〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129番地 TEL:055-948-3111

https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/

最新情報はこちら

Webサイト



外来診療日割表

